千葉県八千代市

長兵衛野南遺跡発掘調査報告書

―― 店舗改築に先行した埋蔵文化財発掘調査 ――

２０００

京成バラ園芸株式会社

八千代市遺跡調査会

千葉県八千代市　長兵衛野南遺跡発掘調査報告書　京成バラ園芸株式会社　八千代市遺跡調査会

凡　　例

1 本書は、八千代市大和田新田字長兵衛野749－1に所在する長兵衛野南遺跡の発掘調査報告書である。
2 発掘調査は、京成バラ園芸株式会社の委託を受け、八千代市遺跡調査会が実施した。
3 発掘調査・本整理作業は以下のとおり実施した。

確認調査		本調査	
期　　間	平成９年４月16日～平成９年５月21日	期　　間	平成９年５月30日～平成９年６月13日
面　　積	2,680㎡/26,800㎡	面　　積	150㎡
担　　当	森　竜哉	担　　当	森　竜哉
備　　考	市直営による国庫補助事業	備　　考	市遺跡調査会による事業者負担事業

本整理作業

整理期間	平成11年11月30日～平成12年１月20日	整理担当	森　竜哉
備　　考	市遺跡調査会による事業者負担事業		

4 本書の編集・執筆は森　竜哉が行った。
5 現場の遺構、遺物及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
6 本書の作成・刊行に際しては森と遠藤が分担し、森が統括した。

遺構・遺物図版作成	森　竜哉　遠藤　誠	遺構・遺物トレース	遠藤　誠
遺物接合	遠藤　誠　森　竜哉	遺物実測	遠藤　誠
遺物拓本	遠藤　誠　森　竜哉	写真図版作成	森　竜哉

7 石器類の石材鑑定には㈶山武郡市文化財センター吉田直哉氏に御教示を得た。
8 出土遺物、実測図等は八千代市教育委員会において保管している。
9 発掘調査から整理作業において下記の方々に御指導頂いた。記して感謝する次第である。
　玉井庸弘　中野修秀
10 本書の遺構番号は、発掘調査時の番号をそのまま使用している。
11 遺構・遺物の縮尺は下記のとおり統一している。
　住居跡 1/60　土器・石器・土製品 1/3　剥片・石鏃 2/3
12 スクリーントーンは遺構では住居跡の炉と粘土範囲、遺物では石器側面の敲打範囲に用いた。
13 破線は住居跡内において用いた。床硬化範囲を一点破線、台状にやや高くなる範囲を二点破線で現した。
14 本書で掲載した地図は、八千代都市計画基本図1/2,500及び1/25,000に加筆して使用している。
15 本書掲載の航空写真は、昭和54年度に八千代市が撮影したものを用いた。

目　　次

凡　　例
本文目次
Ⅰ　序説
　a　調査に至る経緯及び経過 …… 1
　b　遺跡位置及び周辺の遺跡 …… 2
Ⅱ 検出した遺構と遺物
　a　遺構と遺物 …… 3、5
Ⅲ　まとめ
　a　遺構について …… 11
　b　遺物から見た遺構の動態 …… 11

挿　図　目　次

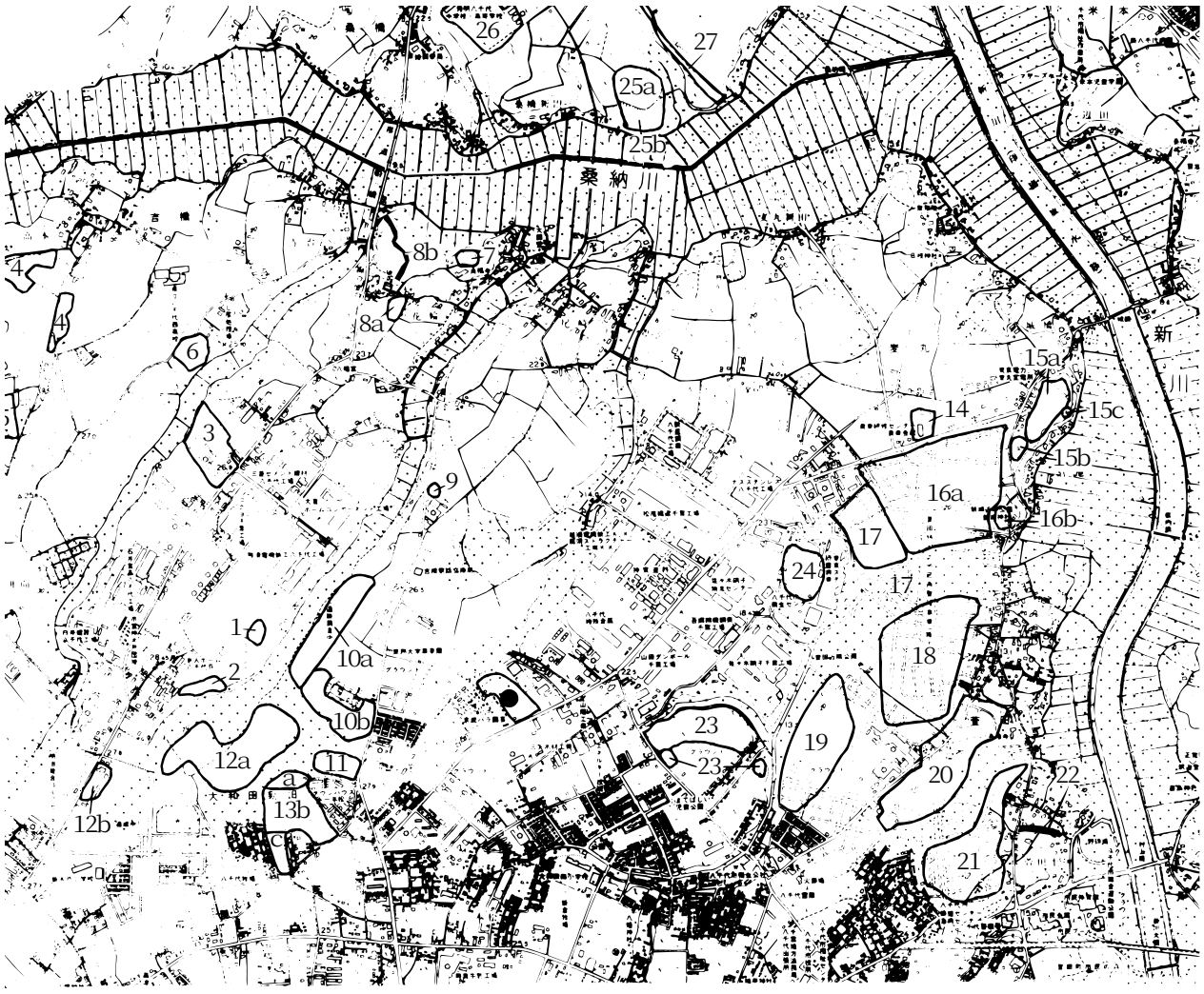
第１図 遺跡位置及び周辺の遺跡 …… 2
第２図 遺跡地形図 …… 3
第３図 長兵衛野南遺跡遺構配置図 …… 3
第４図 長兵衛野南遺跡トレンチ
及び遺構配置図 …… 4
第５図 01Ｄ平面実測図 …… 6
第６図 02Ｄ平面実測図 …… 6
第７図 01Ｄ出土遺物拓影図 …… 7
第８図 02Ｄ出土遺物拓影図 …… 8
第９図 遺構外出土遺物拓影図 …… 9
第10図 遺構内･遺構外出土石器実測図 …… 10

表　　目　　次

第１表 周辺の遺跡一覧 …… 1
第２表 01Ｄ 出土土器・土製品観察表 … 5、7、8
第３表 02Ｄ 出土土器・土製品観察表 …… 8、9
第４表 遺構外出土土器･土製品観察表 …… 9
第５表 遺構内･遺構外出土石器観察表 …… 10

図　版　目　次

図版１　長兵衛野南遺跡周辺全景　遺構全景
図版２　01Ｄ全景　　01Ｄ遺物出土状況
　　01Ｄ炉跡状況
図版３　02Ｄ全景　　02Ｄ遺物出土状況
　　02Ｄ炉跡状況
図版４　01Ｄ出土遺物
図版５　02Ｄ出土遺物　　遺構外出土遺物
図版６　遺構内・遺構外出土石器
報告書抄録
調査組織
奥付



第１図　遺跡位置及び周辺の遺跡　（１：25.000）

Ⅰ　序　　説

ａ　調査に至る経緯及び経過

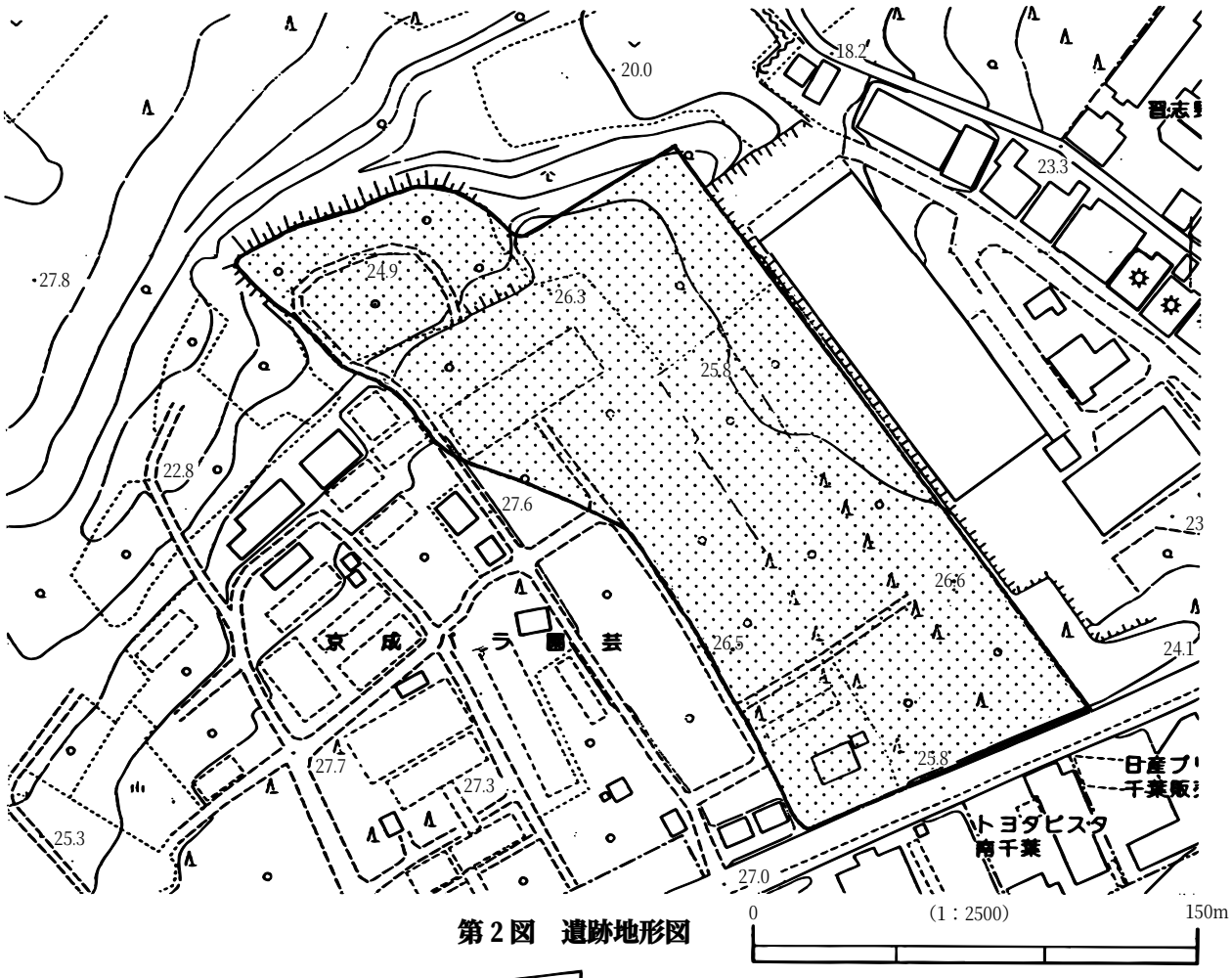
平成９年２月、京成バラ園芸株式会社より店舗改築のため、埋蔵文化財にかかる遺跡の所在について照会が提出された。これを受け、八千代市教育委員会では現地踏査を実施した。当該地は周知の遺跡ではなかったが、やや数量は少ないものの縄文土器片が散布していた。この旨、千葉県教育委員会に副申し、両者による現地踏査を実施した。この結果、照会地の東側部分に縄文土器片等の遺物が散布していることが判明した。新発見の遺跡として、東側部分の26,800㎡について確認調査が必要な旨、千葉県教育委員会を通じて回答した。 事業者との協議において、事業計画の変更がむずかしいとのことから確認調査を実施することとなった。平成９年４月、準備が整ったところで調査に着手した。 確認調査の結果、縄文時代中～後期の遺物のほか同時代中期の住居跡を１か所確認した。遺物分布が少ない点から、住居跡の落ち込み部分のみを拡張して本調査とする旨最終的な結論を得た。 本調査は、01Ｄと後に呼称する部分の重機による拡張から開始した。確認調査時において、その隣接トレンチからやや多く遺物が出土していたが、01Ｄに帰属するものと解していた。ところが、拡張を進める内にもう１か所の落ち込みを検出したため02Ｄとして呼称し、遺構調査に着手した。

調査経過は平成９年５月30日～６月13日にわたって現場調査を実施した。５月30日重機による拡張作業、６月２日～６日01Ｄ掘り下げ及び精査、６月４日～10日02Ｄ掘り下げ及び精査、６月10日～12日01Ｄ・

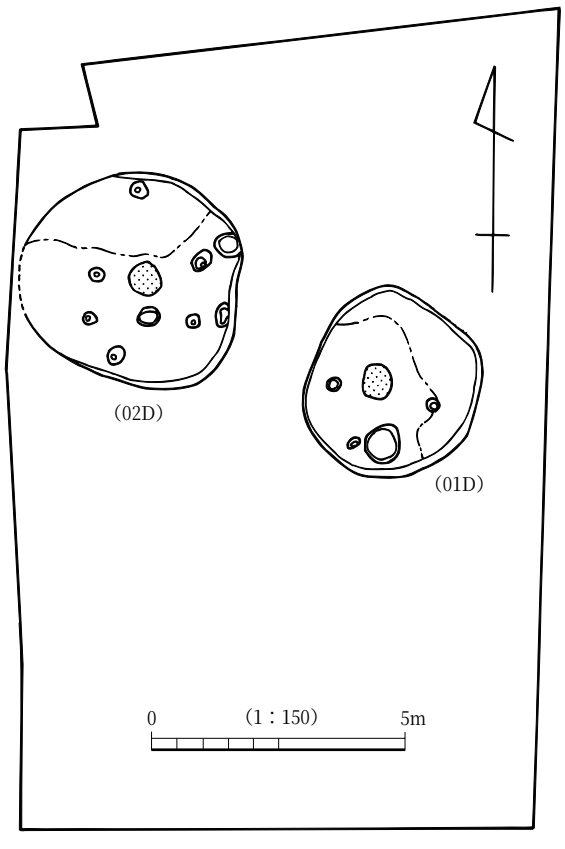
b　遺跡位置及び周辺の遺跡（第1表　周辺の遺跡一覧）

№	遺跡名	主な時代	種　別	主な遺構及び遺物	備考
1	内野南（b地点） うちのみなみ	縄文	包蔵地	縄文時代土坑２ 基(内１基落とし穴) 縄文土器片(井草式・加曽利Ｅ．Ｂ 式)	平10.８月八教委調査 確認本調査
2	内野南（ａ地点） うちのみなみ	縄文　奈良	集落跡 包蔵地	縄文時代早期炉穴５基　前期ピット５基 奈良時代住居跡１軒 縄文土器片(茅山・黒浜・浮島)	平10.３月八遺調調査 本調査 現在本整理中
3	西内野 にしうちの	縄文　（早～後）	包蔵地	縄文時代土坑13基(落とし穴主体) 縄文土器片(黒浜・阿玉台)	平11.4月八遺調調査 本調査　現在本整理中
4	東　向 ひがしむかい	旧石器	包蔵地	旧石器遺物集中地点(Ⅶ層)１カ所	平11. 2月千文セ調査 確認調査
5	八王子台 はちおうじだい	旧石器　縄文（中）	集落跡 包蔵地	旧石器遺物出土地点(Ⅲ及びⅦ層)14カ所　縄文時代中期 住居跡４軒、土坑10基、石器集中地点３カ所	平11. 1月千文セ調査 確認調査
6	西芝山 にししばやま	旧石器　平安	集落跡 包蔵地	旧石器遺物出土地点(Ⅲ及びⅦ層)６カ所 平安時代住居跡５軒、土坑６基	平10.12月 千 文 セ 調 査 確認調査
7	吉 橋 城 よしはしじょう	中世	城跡	溝状遺構10条、ピット42基　陶磁器類	昭61.11月 八 教 委 調 査 確認調査
8a	渋内 しぶち	室町	集落跡 城跡	地下式横穴11基　土坑1 基　整地遺構1 カ所 陶器片(すり鉢、内耳土器、鉢等)	昭58. 2 月 八 教 委 調 査 本調査
8b	妙 見 前 みょうけんまえ	室町	城跡	吉橋城関連堀1 条　溝6 条　整地遺構1 カ所　常滑焼甕、 すり鉢等	平10. 1 月 八 教 委 調 査 確認調査
9	尾崎群集塚 おざきぐんしゅうつか	中世	塚	６基中１基調査塚１基(14.4m×14mの方形高さ2.8m) 整地後ローム、黒色土積上	平10. 2 月 八 教 委 調 査 確認調査
10a	芝山 しばやま	旧石器　縄文 奈良・平安	集落跡 包蔵地	旧石器時代ブロック(Ⅲ～Ⅸ層)19カ所 縄文時代早期炉穴２基　前～後期住居跡各１軒 同時代土坑46基(内落とし穴44基) 奈良・平安時代住居跡８軒(内１軒鍛冶炉 伴)製鉄炉１基	昭60～62年 千 文 セ 調 査 本調査
10b	芝山 しばやま	縄文　平安	集落跡	縄文時代前期(黒浜式)住居跡２軒　土坑９基 平安時代住居跡１軒　墓坑１基	昭61～62年八西調調査 本調査
11	ヲイノ作 をいのさく	旧石器　縄文	集落跡 包蔵地	旧石器時代遺物集中地点(Ⅸ層上部)1カ所 縄文時代早期炉穴５基　前・後期住居跡各１軒 同時代土坑５基(内落とし穴４基)	昭61～62年八西調調査 昭62年千文セ調査 本調査
12a	仲ノ台 なかのだい	旧石器　縄文 平安	集落跡 包蔵地	旧石器時代遺物集中地点(Ⅳ～Ⅴ層･Ⅶ～Ⅸ層)各２カ所 縄文時代前期(黒浜式)住居跡10軒　土坑63基(内落とし穴 28基)　平安時代住居跡４軒　墓坑２基	昭61～62年八西調調査 昭61～63年千文セ調査 本調査
12b	仲ノ台 なかのだい	旧石器　縄文	包蔵地	旧石器時代遺物集中地点(Ⅸa.c層)２カ所　縄文時代早期 落とし穴２基　前期(浮島式)小竪穴状遺構１基	平９．２月八西調調査 昭61～62年千文セ調査 本調査
13	ヲイノ作南 をいのさくみなみ	縄文　中近世	集落跡	a.縄文時代早期炉穴３基　前期(黒浜式) 住居跡４軒 土坑９基(内落とし穴２基)b.縄文時代前期(黒浜式) 住居跡20軒　土坑21基(内落とし穴15基)中世溝１条等 c.遺構無し　縄文時代早期土器片包含層	昭62～63年八西調調査 平７～８年八遺調調査 本調査　現在本整理中 平８．８月八教委調査
14	麦丸 むぎまる	縄文	包蔵地	遺構無し　縄文時代中後期土器片(加曽利Ｂ式主体)	昭56. ８月八遺調調査
15a	菅地ノ台 すげちのだい	縄文　弥生　古墳 奈良・平安	集落跡 古墳	縄文時代落とし穴１基　弥生時代後期住居跡３軒　方形周溝 墓１基　古墳時代前～中期住居跡３軒　古墳周溝のみ１条 奈良・平安時代住居跡23軒　掘立柱建物跡14棟他	平８～９年八教委調査 本調査
15b	菅地ノ台 すげちのだい	弥生　古墳 奈良・平安	集落跡	弥生時代後期住居跡２軒　古墳時代中期住居跡５軒 奈良・平安時代住居跡３軒　掘立柱建物跡３棟	平１年八教委調査 本調査
16a	権 現 後 ごんげんうしろ	旧石器　弥生 古墳　奈良・平安	包蔵地 集落跡	旧石器時代遺物集中地点27カ所　弥生時代後期住居跡73軒 方形周溝墓３基　古墳時代前期住居跡32軒　中期住居跡５軒 (内石製模造品工房跡４軒)　後期住居跡10軒奈良・平安時代 住居跡68軒　掘立柱建物跡17棟　方形周溝遺構２基	昭52～59年千文セ調査 本調査
16b	権 現 後 ごんげんうしろ	古墳　奈良・平安	集落跡	古墳時代後期住居跡３軒　奈良・平安時代住居跡１軒他	平７年１月八教委調査 本調査
17	ヲサル山 をさるやま	旧石器　縄文　弥生 古墳　奈良・平安	包蔵地 集落跡	旧石器時代遺物集中地点29カ所　縄文時代早期炉穴19基 落とし穴１基　中期住居跡１軒　竪穴状遺構２基　土坑 １基　後期住居跡３軒　弥生時代終末～古墳時代初頭住 居跡34軒　土坑１基　方形周溝墓３基奈良･平安時代住居 跡２軒　掘立柱建物跡１棟	昭56～60年千文セ調査 本調査
18	北海道 ほっかいどう	旧石器　弥生 古墳　奈良・平安	包蔵地 集落跡	旧石器時代ブロック63カ所　弥生時代後期住居跡73軒 古墳時代中期住居跡22軒(内石製模造品工房跡11軒) 後期住居跡７軒(内石製模造品工房跡１軒) 奈良・平安時代住居跡114軒　掘立柱建物跡10棟他	昭54～58年千文セ調査 本調査
19	坊山 ぼうやま	旧石器　縄文	包蔵地 集落跡	旧石器時代ブロック31カ所　縄文時代住居跡１軒	千文セ調査　本調査
20	井戸向 いどむかい	旧石器　弥生 古墳　奈良・平安	包蔵地 集落跡	旧石器時代ブロック34カ所　弥生時代後期住居跡６軒 古墳時代前期住居跡31軒　奈良・平安時代住居跡95軒 掘立柱建物跡44棟　井戸跡10基	昭55～61年千文セ調査 本調査
21	白幡前 しらはたまえ	旧石器　弥生 古墳　奈良・平安	包蔵地 集落跡	旧石器時代ブロック56カ所　弥生時代後期住居跡17軒 古墳時代後期住居跡５軒　奈良・平安時代住居跡279軒 掘立柱建物跡150棟他	昭54～63年千文セ調査 本調査
22	上の台 うえのだい	奈良・平安	集落跡	奈良・平安時代住居跡15軒　掘立柱建物跡１棟 土坑17基　溝６条	昭61～平４年千文セ調査 本調査
23	向 山 むこうやま	旧石器	包蔵地	旧石器時代遺物集中地点(Ⅴ･Ⅶ～Ⅸ層) 土坑１基　焼土跡１基	昭56年八遺調　昭61 ～ 平４年千文セ調査
24	ヲサル山南 をさるやまみなみ	縄文　奈良・平安	集落跡	縄文時代中期(阿玉台式)住居跡８軒　土坑７基 奈良・平安時代住居跡２軒	昭62年八遺調調査 確認調査
25a	桑 橋 新 田 そうのはししんでん	縄文　奈良・平安	集落跡	縄文時代中～後期住居跡５軒　弥生時代後期住居跡１軒 古墳時代前期住居跡171軒	平５～６年八教委調査 確認調査
25b	桑 橋 新 田 そうのはししんでん	弥生　古墳　平安	集落跡	弥生時代後期住居跡３軒　方形周溝墓４基 古墳時代前期住居跡３軒　平安時代住居跡２軒	昭51年桑橋遺跡発掘調 査団　本調査
26	作ヶ谷津 さくがやつ	縄文　古墳　平安	集落跡	縄文時代中期住居跡１軒　古墳時代前期住居跡３軒 平安時代住居跡	１次昭55～56年八遺調 ２次昭58～59年八遺調
27	桑納 かんのう	弥生　古墳　平安	集落跡	住居跡25軒　方形周溝遺構１基　溝１条 弥生土器(後期) 土師器(五領･和泉式)	昭59年八教委調査 本調査

(注)備考　・(財)千葉県文化財センター(千文セ)　・八千代市教育委員会（八教委）
　　・八千代市遺跡調査会（八遺調）・八千代市西八千代遺跡群調査会（八西調）



第２図　遺跡地形図



第３図　長兵衛野南遺跡遺構配置図

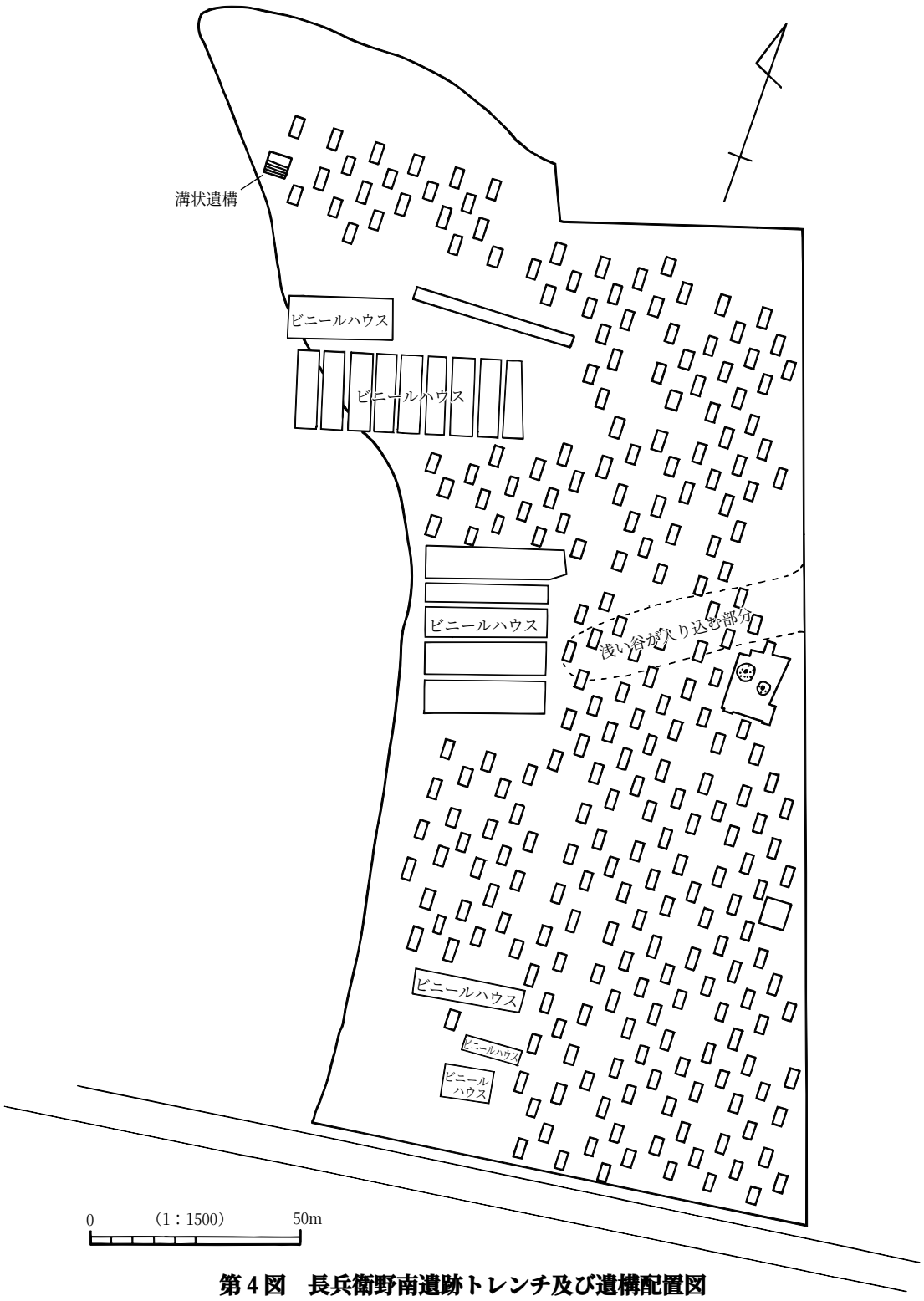
02Ｄ平面図作成、13日遺構全景撮影、現場撤収により終了した。

Ⅱ　検出した遺構と遺物

検出した遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡２軒と確認調査時において検出した時期不明の溝状遺構１条である。溝状遺構については、時期及び性格の把握が困難であり第４図に示すのみとした。

遺跡は南側において削平され、その客土を北側に押している状況であった。ただ北東側では樹木の植え替えによるカクランと北西側では緩斜面の削平によって遺構が遺存していても破壊を受けてしまったと想定される。よって、浅い東西方向の谷をまたぐ南と北側が基本的な土層堆積 を示し、遺構が検出された訳である。

㊟確認調査時の概要については



第４図　長兵衛野南遺跡トレンチ及び遺構配置図

千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　　平成９年度　八千代市教育委員会　参照

01D（第５図 図版２）

規　模　3.48m×3.4mの楕円形　　N－28°－E（B－B'間でＰ３をかけて計測）

確認面　ソフトローム上面　　A－A'間A８cm A'20cm、B－B'間B16cm B'７cm

床　面　北から東壁際にかけてやや軟弱である他は、ロームブロック状のやや踏み締められた痕跡が明瞭である。掘り込みはⅢ～Ⅳ層の不整合面で、地床である。

ピット　Ｐ１－69cm、Ｐ２－48cm、Ｐ３－13cm、Ｐ４－23cm、Ｐ１、２は主柱穴、Ｐ３は出入口施設か？

炉　66cm×54cmの楕円形で深さ21cmを測る。底面南側に深さ３cmの小ピットがある。底面及び壁の立ち上がり部分は良く焼けていて、一部に赤色化したハードロームが見られる。なお、底面はハードロームを20cm程度掘り下げている。

遺物量　170点程度出土している。平面では炉内及び炉と東壁の間の部分で、高さでは床面～15cm程度の範囲で浮いて出土している。

02D（第６図 図版３）

規　模　4.3m×4.1mの楕円形　W－30°－S（Ｐ１を奥としてＰ２とＰ３の間を通して計測）

確認面　ソフトローム上面　A－A'間A10cm A'14cm、B－B'間B16cm B'14cm

床　面　北壁から炉北側にかけてやや軟弱である他は、ロームブロック状の踏み締められた痕跡が明瞭である。掘り込みはⅢ～Ⅳ層の不整合面で、地床である。また、Ｐ７を中心とした部分及びＰ８の南側で台状に１～３cmやや高くなる部分がみられた。

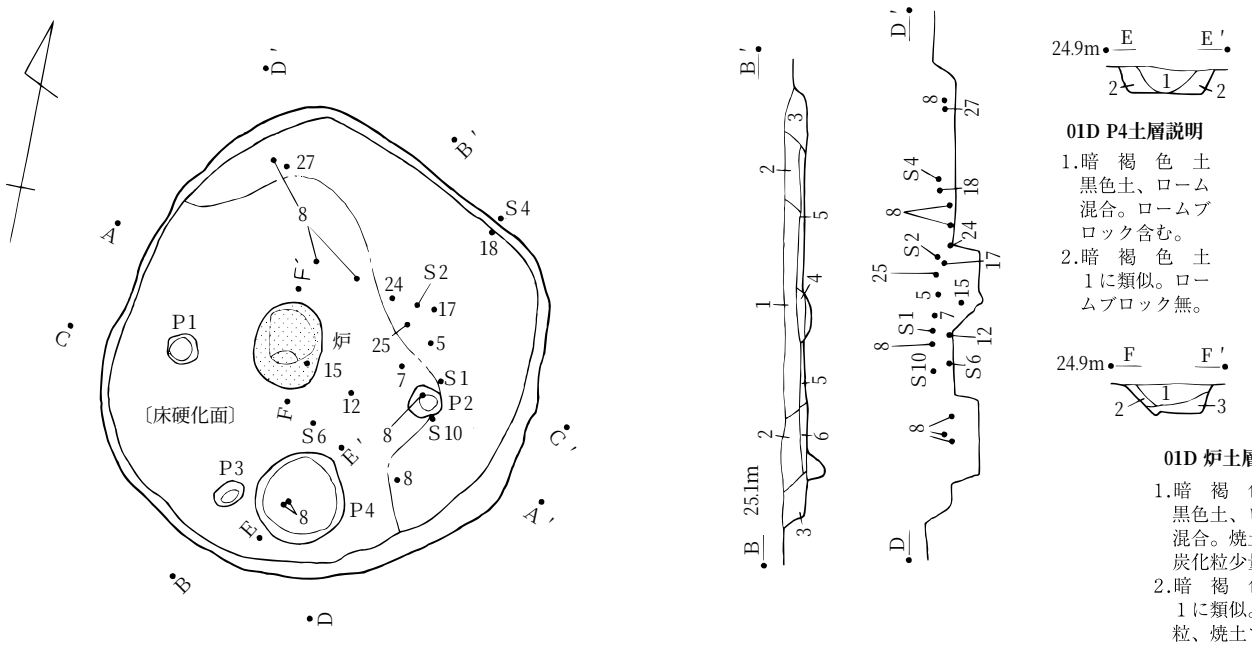
ピット　Ｐ１－69cm、Ｐ２－57cm、Ｐ３－66cm、Ｐ４－16cm、Ｐ５－13cm、Ｐ６－15cm、Ｐ７－50cm、Ｐ８－20cm、Ｐ９－４cm、Ｐ１、２、３は主柱穴、Ｐ４、５、６は副柱穴、Ｐ９において白色粘土が検出された。

炉　68cm×64cmの楕円形で深さ26cmを測る。底面及び壁の立ち上がり部分は良く焼けていて、一部に赤色化したハードロームが見られる。なお、底面は平坦でハードロームを26cm程度掘り下げている。

遺物量　150点程度出土している。平面では炉内及びＰ９周辺を中心として、北～東壁側で散発的である。高さでは床面～10cm程度の範囲で浮いて出土している。

第２表　01D 出土土器・土製品観察表（第７図・図版４）(1)

挿図No	出土位置	文様の特徴・胎土等
第７図－１	覆土最上層	やや波状となる口縁部下に細い隆帯 両側をなぞる。ＲＬ縄文を施す。長石粒混入
2	覆土最上層	平縁となる口縁部下に微隆起帯で片側のナゾリ。ＲＬ縄文を施す。 長石粒混入
3	覆土最上層	平縁となる口縁部下に微隆起帯で片側中心のナゾリ。ＲＬ縄文を施す。銀雲母粒顕著
4	覆土最上層	口縁部直下に太沈線で区画。ＲＬ縄文を施す。長石、粗砂粒混入
5	床面＋13cm	口縁部下に微隆起帯で片側のナゾリ。羽状効果のＲＬ縄文を施す。長石粒混入
6	覆土最上層	やや波状となる口縁部下に横位連携孤線文。下部にＲＬ－ＬＲ縄文を施す。
7	床面＋15cm	口唇部直下に細い竹状工具による横位沈線文。下部に縄文 長石粒混入
8	床面＋ 5cm	1.5m程度離れて接合。口縁部下に横位連携孤線文。ＲＬ縄文を施す。
9	覆土最上層	口縁部下に微隆起帯で片側のナゾリ。逆Ｕ字状の沈線。長石粒・銀雲母粒顕著
10	覆土最上層	口縁部外面緩くＵ字状となる沈線 直下にＲＬ縄文を施す。
11	覆土最上層	口縁部下に横位沈線文。下部にＲＬ縄文 銀雲母粒顕著
12	床面＋ 0cm	やや波状となる口縁部下に横位沈線文。長石粒混入
13	覆土最上層	口唇部コ字状 外面直下からＬＲ縄文を施す。長石粒混入
14	覆土最上層	ＬＲ縄文を施文する。長石粒混入
15	炉底＋15cm	口縁部直下に円形刺突文（直径2mm大）。

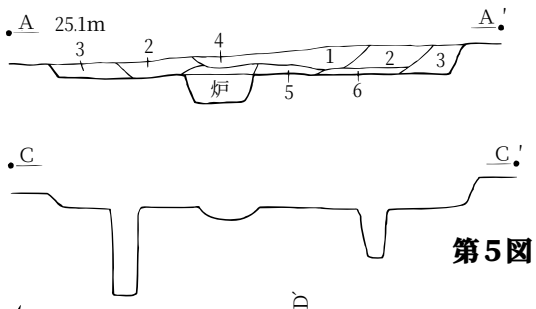


01D P4土層説明

1.暗　褐　色　土
黒色土、ローム混合。ロームブロック含む。
2.暗　褐　色　土
1に類似。ロームブロック無。

01D 炉土層説明

1.暗　褐　色　土
黒色土、ローム混合。焼土粒、炭化粒少量含む。
2.暗　褐　色　土
1に類似。焼土粒、焼土ブロック含む。
3.暗　褐　色　土
焼土、ローム混合。赤色化ロームブロック含む。

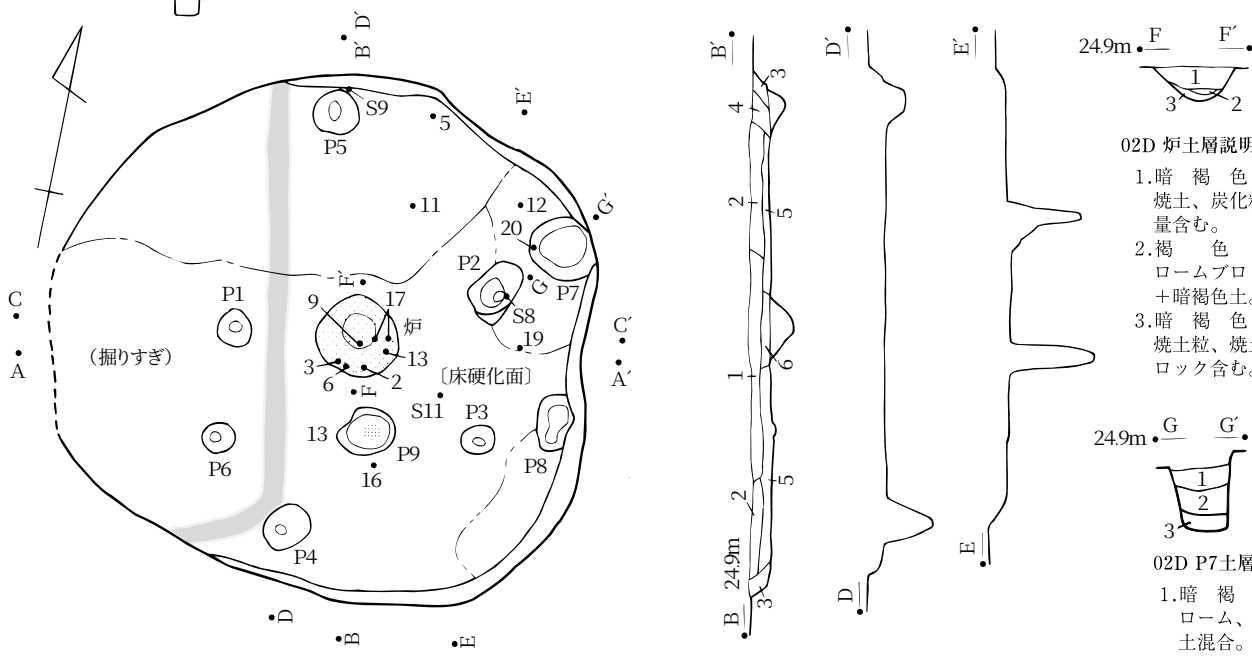


01D 土層説明

1.暗褐色土　黒色土、ローム混合。焼土粒、炭化粒少量含む。
2.暗褐色土　1に類似。黒色土やや少ない。
3.褐　色　土　ローム主。黒色土含む。
4.暗褐色土　黒色土粒、焼土粒含む。
5.褐　色　土　ローム主。暗褐色土含む。
6.褐　色　土　ローム主。黒色土粒斑点状に含む。

0　2m

第５図　01D平面実測図

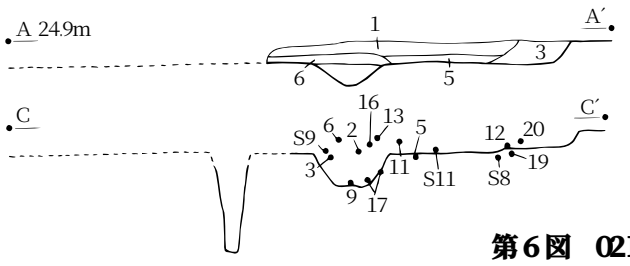


02D 炉土層説明

1.暗　褐　色　土
焼土、炭化粒少量含む。
2.褐　色　土
ロームブロック＋暗褐色土。
3.暗　褐　色　土
焼土粒、焼土ブロック含む。

02D P7土層説明

1.暗　褐　色　土
ローム、暗褐色土混合。締まる。
2.暗　褐　色　土
ローム、黒色土混合。ややほそほそする。
3.褐　色　土
ロームブロック＋暗褐色土。

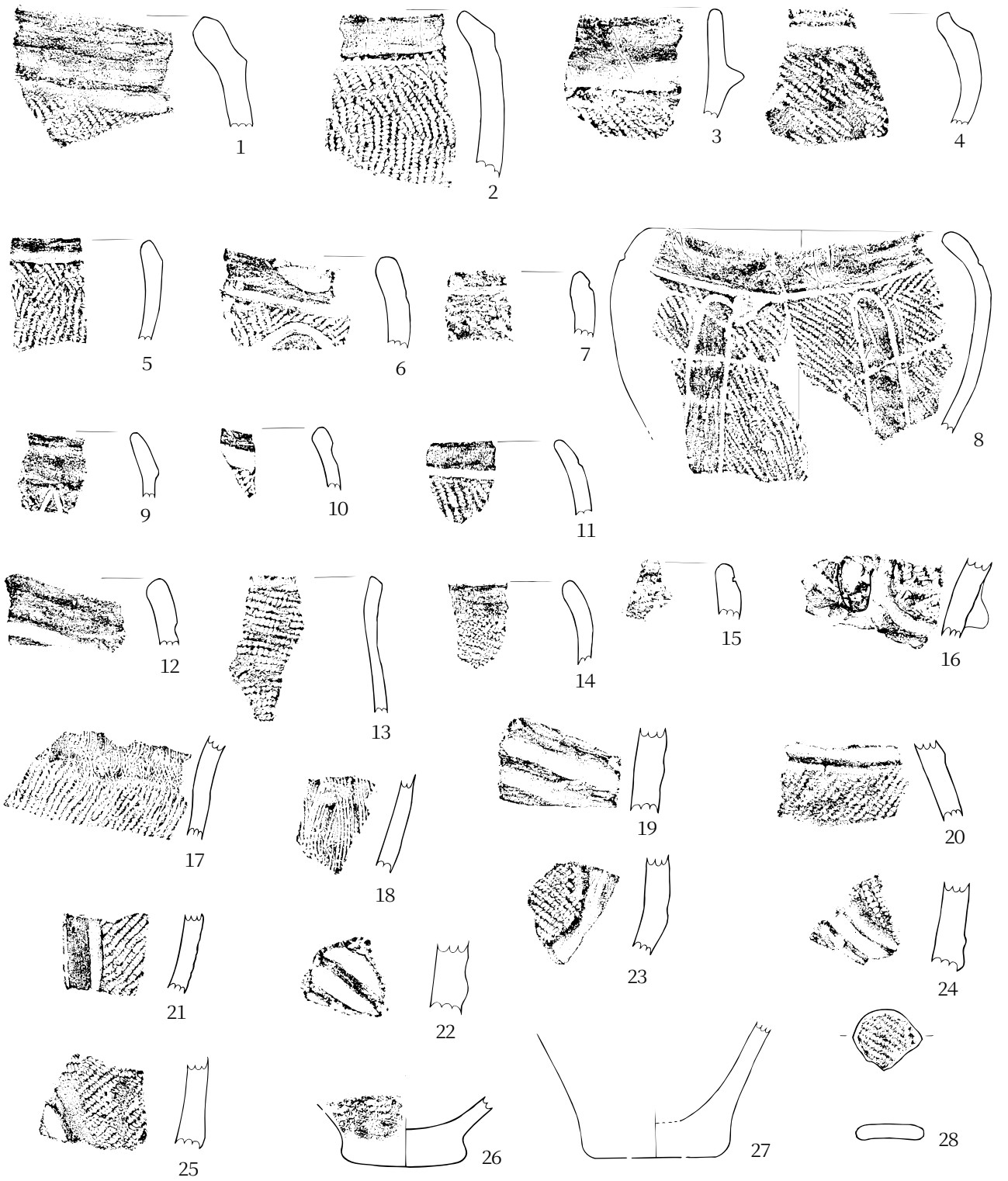


02D 土層説明

1.暗褐色土　黒色土、ローム混合。炭化粒少量含む。
2.暗褐色土　1に類似。黒色土やや少ない。
3.褐　色　土　ローム主。暗褐色土含む。
4.暗褐色土　黒色土主、ローム粒少量含む。
5.褐　色　土　ローム主。暗褐色土含む。締まる。
6.褐　色　土　5に類似。焼土粒含む。

0　2m

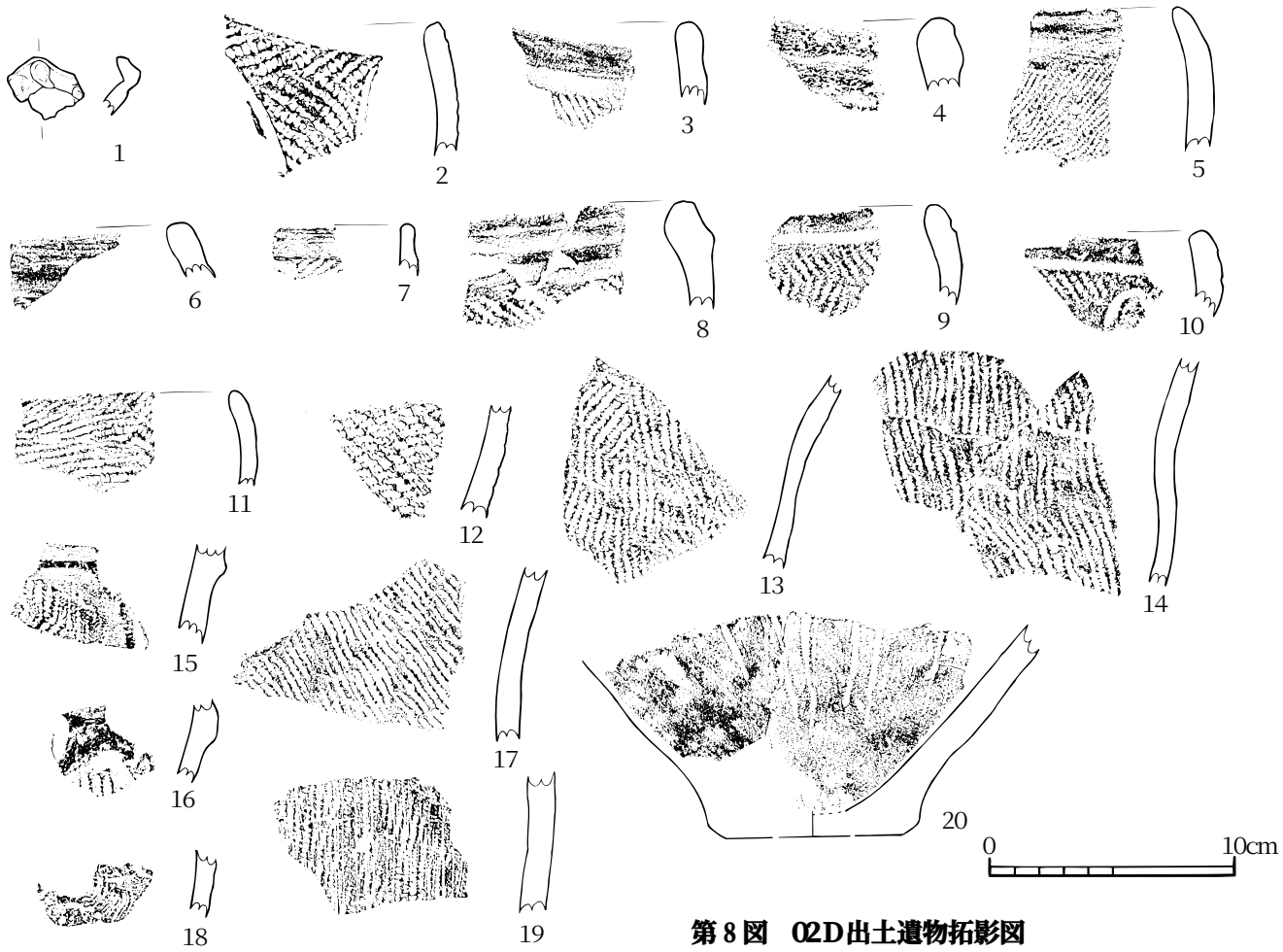
第６図　02D平面実測図



第７図　01D出土遺物拓影図

第２表　01D 出土土器・土製品観察表（第７図・図版４）**(2)**

挿 図 №	出土位置	文 様 の 特 徴 ・ 胎 土 等
第７図－16	覆土最上層	意匠充填文系。沈線による区画内にＲＬ縄文を施文する。
17	床面＋ 6㎝	胴部片。ＲＬ縄文施文後に縦位条線文。
18	床面＋ 9㎝	胴部片。縦位条線文を施文する。
19	覆土最上層	胴部片。意匠充填文系 銀雲母粒顕著。
20	覆土最上層	上位胴部片。細い隆帯で片側中心のナゾリ。ＲＬ縄文を施文する。
21	覆土最上層	沈線による懸垂文外にＲＬ縄文を施文する。
22	覆土最上層	胴部片。微隆起帯外にＬＲ？縄文を施文する。長石粒顕著。
23	覆土最上層	胴部片。微隆起帯外にＲＬ縄文を施文する。長石粒顕著。
24	床面＋ 2㎝	胴部片。細い隆帯の両側のナゾリ。ＲＬ縄文を施文する。



第８図　02D出土遺物拓影図

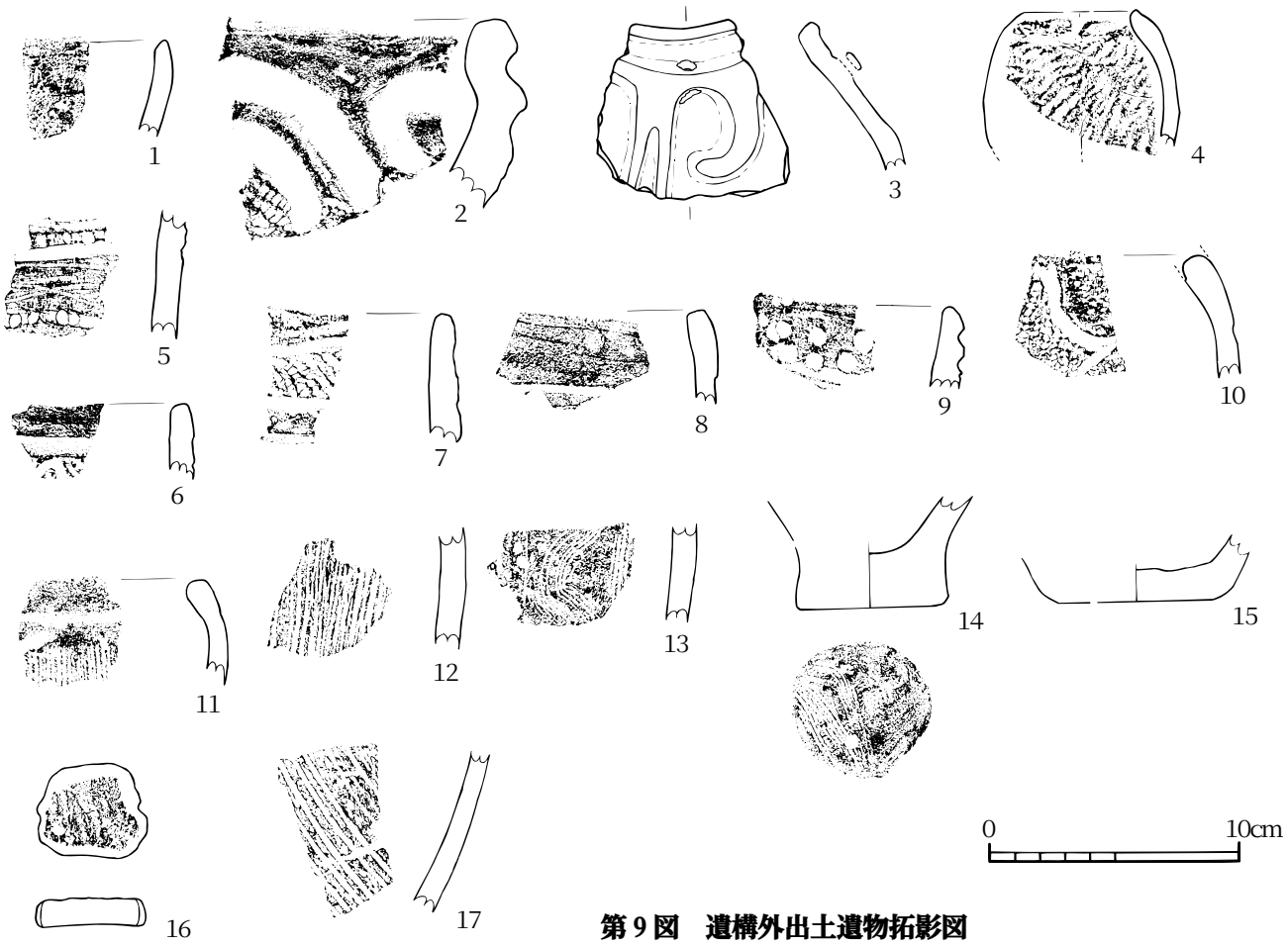
第２表　01D 出土土器・土製品観察表（第７図・図版４）(3)

挿 図 №	出土位置	文 様 の 特 徴 ・ 胎 土 等
第７図－25	床面＋15㎝	胴部片。断面カマボコ形の細い隆帯の両側のナゾリ。ＲＬ縄文を施文する。
26	覆土最上層	底部。底径6.4㎝遺存高3.4㎝　胴部下端にＲＬ縄文を施文する。長石粒、銀雲母粒顕著
27	床面＋ 7㎝	底部。底径7㎝　遺存高6.4㎝　縦位のナデ整形。長石粒顕著

挿 図 №	出土位置	特 徴 及 び 計 測 値 等
第７図－28	覆土最上層	土製円盤の欠損品。3.6㎝ ×3.1㎝ 厚さ0.7㎝ 重さ8.1ｇ　ＲＬ縄文施文。縁辺部の磨耗顕著

第３表　02D 出土土器・土製品観察表（第８図・図版５）(1)

挿 図 №	出土位置	文 様 の 特 徴 ・ 胎 土 等
第８図－１	一　　括	焼成粘土塊
2	床＋ 3㎝	横位連携弧線文ないし沈線文系の意匠充填文系。ＬＲ－ ＲＬの羽状縄文を施文
3	床＋ 1㎝	やや波状となる口縁部下に緩い横位沈線文。直下に縦回転のＬ縄文を施文 長石粒顕著
4	覆土最上層	やや波状となる口縁部下に緩い微隆起帯を構成。砂粒、長石粒顕著
5	床＋０㎝	やや微隆帯を意識する片側のナゾリ。ＬＲ縄文を施文 長石粒、銀雲母粒顕著
6	床＋10㎝	口縁部無文で下部にＲＬ？縄文を施文する。長石粒顕著
7	一　　括	口縁部無文で下部にＬＲ縄文を施文する。長石粒顕著
8	覆土最上層	やや波状となる口縁部下に細めの隆帯の両側ナゾリ。下部にＲＬ縄文を施文。
9	炉 底 面	口縁部下に横位沈線文。下部にＲＬの羽状縄文を施文する。砂粒、長石粒顕著
10	覆土最上層	横位連携弧線文。ＲＬ縄文を施文する。砂粒、長石粒顕著
11	床＋９㎝	外面直下からＬＲ－ ＲＬ縄文の2種を施文する。砂粒、長石粒顕著 輪積痕顕著
12	床＋２㎝	胴部片。ＬＲＬ縄文を施文する。長石粒顕著
13	床＋10㎝	頸部～胴部片。ＲＬ縄文を施文する。長石粒顕著 焼成良
14	覆土最上層	頸部～胴部片。13と同一固体
15	覆土最上層	胴部片。意匠充填文系　ＬＲ縄文を施文する。長石粒顕著
16	床＋６㎝	胴部片。微隆帯による区画文内にＲＬ縄文を施文する。



第９図　遺構外出土遺物拓影図

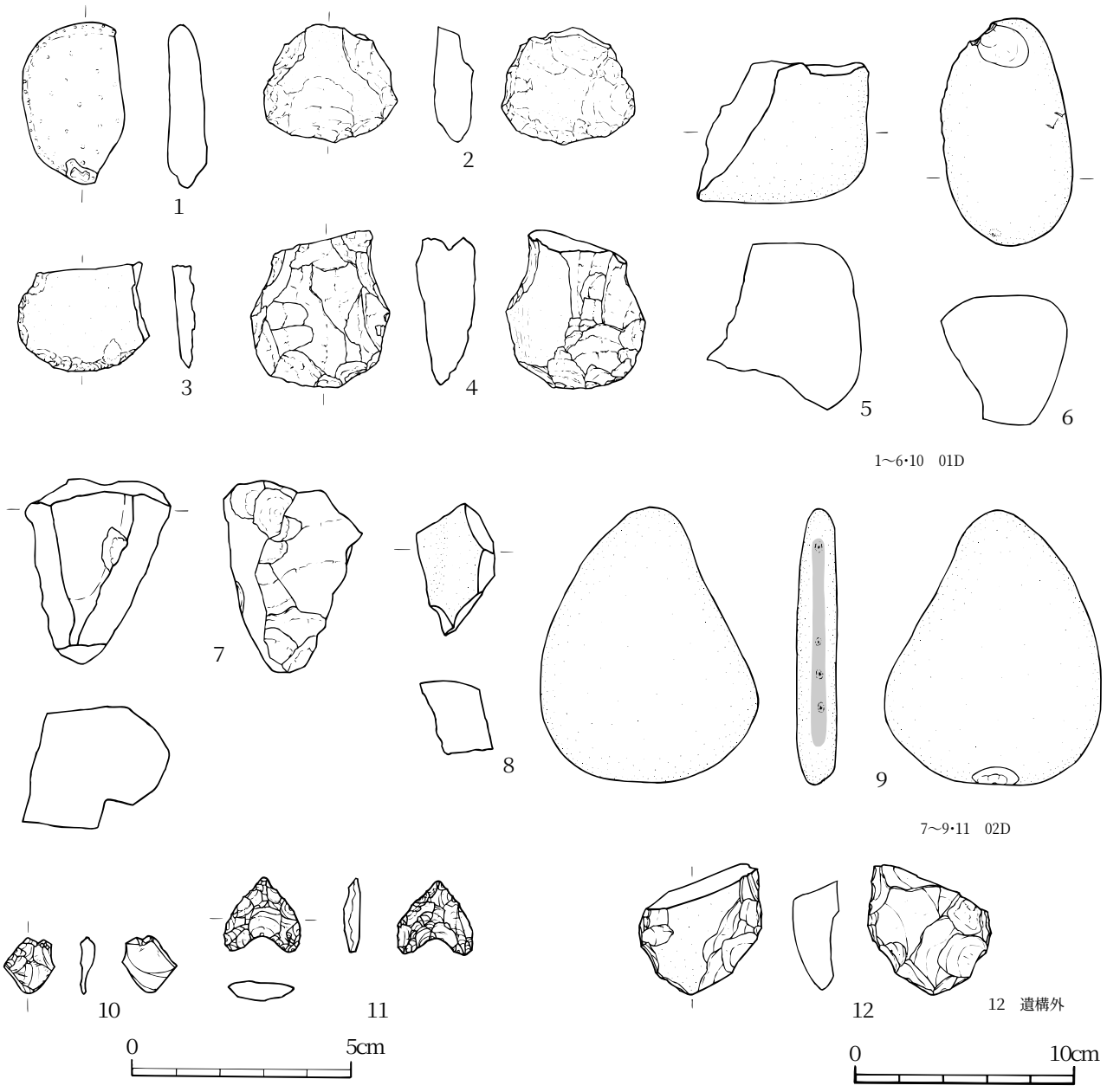
第３表　02D 出土土器・土製品観察表（第８図・図版５）(2)

挿 図 №	出土位置	文 様 の 特 徴 ・ 胎 土 等
第８図－17	炉 底 面	胴部片。Ｒ縄文を施文する。砂粒、長石粒顕著
18	覆土最上層	胴部片。条線文を施文する。輪積上に刻み目を入れた接着方法をとる。砂粒、長石粒顕著
19	床＋0㎝	胴部片。ＬＲ縄文施文後に条線文を重ねる。長石粒顕著
20	床＋4㎝	底部。底径7.5㎝　遺存高8.6㎝ キャリパー 深鉢ないし横位連携弧線文。長石粒顕著

第４表　遺構外出土土器・土製品観察表（第９図・図版５）

挿 図 №	出土位置	文 様 の 特 徴 ・ 胎 土 等
第９図－１	Ｊ７－10G	口唇部内面隅切り。雲母片、石英粒顕著 阿玉台Ⅱ式
2	Ｊ７－16G	意匠充填文　ＲＬ縄文を施文する。加曽利ＥⅢ古
3	Ｊ５－８Ｇ	有孔鍔付土器。微隆起帯によってＪ字状他の区画をつくる。焼成後に鍔部に穿孔する。
4	Ｊ５－８Ｇ	内湾する小型土器 口縁部やや下からＲＬ‐ＬＲ2種の縄文を施文する。
5	表　　採	胴部片。沈線と棒状工具の押圧による列点文 焼成堅い。連弧文系 加曽利ＥⅡ～Ⅲ式
6	表　　採	やや波状となる口縁部下に緩い沈線文。ＬＲ？ 縄文を施文 横位連携弧線文系　 縄文を施文する。
7	Ｋ８－12G	口唇部やや下に沈線文 ＲＬ縄文施文下部に隆起帯　連孤文土器か
8	Ｋ８－12G	やや波状となる口縁部下に緩い横位沈線文。長石粒、雲母粒顕著
9	Ｋ８－８Ｇ	やや波状となる口縁部直下に円形刺突文 下部に沈線 沈線区画後に刺突
10	Ｉ８－13G	口縁部直下に沈線とＲＬ縄文を施文する。横位連携弧線文系 把手部分の欠落痕あり。
11	Ｋ８－３Ｇ	口縁部やや下に緩い横位沈線文。下部に条線文を施文する。
12	表　　採	胴部上位。条線文を施文する。
13	Ｋ８－８Ｇ	胴部片。条線文を施文する。長石粒顕著
14	Ｊ６－８Ｇ	底部。底径5.3㎝　遺存高4.4㎝　底部外面に条線文あり。長石粒顕著
15	Ｋ８－８Ｇ	底部。底径6.4㎝　遺存高2.4㎝
17	表　　採	条線文。 加曽利Ｂ式の粗製土器

挿 図 №	出土位置	特 徴 及 び 計 測 値 等
第９図－16	表　　採	土器片錘。4.4㎝ ×3.7㎝ 厚さ1.0㎝ 重さ23.5g　ＬＲ？縄文施文。２カ所に刻みあり。



第10図　遺構内・遺構外出土石器実測図

第５表　遺構内・遺構外出土石器観察表（第10図・図版６）　　単位（㎝）

挿 図 №	出土位置	器　　種	石　　材	長さ	幅	厚さ	重さ(g)	備　　考
第10図－１	床＋15㎝	使用痕ある礫	流紋岩	7.4	4.6	1.7	64.8	1/3 欠損
2	床＋12㎝	打製石斧	安山岩	5.3	6.2	1.8	71.8	分銅形 1/2 欠損 原石面残す。
3	覆土最上層	打製石斧	安山岩	4.7	6.1	0.9	41.7	分銅形 1/2 欠損 残存部も表裏で剥離か。 表面は原石面ではなく人為的に磨られている。
4	床＋11㎝	打製石斧	ホルンフェルス	6.8	6.4	2.8	143.0	分銅形 1/3 欠損
5	覆土最上層	磨石？	流紋岩	6.3	7.3	7.5	545.0	側面敲打痕 部分的に赤化している。
6	床＋12㎝	磨石	ホルンフェルス	10.5	5.9	6.0	443.8	側面ややざらざらしている。
7	覆土最上層	石皿	流紋岩	8.5	6.5	5.3	290.1	側面下端に2㎝の凹みあり。
8	Ｐ２覆土中	石皿？	ホルンフェルス	5.5	3.5	3.3	74.8	
9	床＋ 2㎝	台石か石皿	流紋岩	12.5	9.8	1.9	284.9	側面敲打痕あり。
10	床＋17㎝	チップ	黒曜石	1.3	1.3	0.2	0.4	
11	床＋ 4㎝	石鏃	黒曜石	1.7	1.7	0.4	0.9	
12	K8- 8G	打製石斧	安山岩	5.5	5.6	2.2	67.9	分銅形 1/2 欠損

Ⅲ　ま　　と　　め

a　遺構について

本遺跡では、加曽利ＥⅢ式期の住居跡が２軒検出された。調査対象面積26，800㎡に対して極端に少ない遺構数である。前述したが、調査区は大きく土地の改変を受けている。結果として住居跡が２軒検出されたが、カクランにより消失したかないしはと元々その程度の遺構密度だったかは判然としない。本地域における縄文時代中期後半～末葉の集落展開と消長について考慮すべき点が多いと思われる。
住居形態については、６ページを参照されたい。プランは２軒とも円形に近い楕円形である。掘り込みはソフトロームを10～15㎝程度掘っている。炉は地床式で深さ20～25㎝、壁面がよく焼けた共通性をもつ。位置は住居中央よりやや偏って造られる。柱配置は01ＤがＰ1・2の２本主柱、02ＤがＰ1・2・3を結ぶ３本主柱となる。その他のピットでは、01DP4と02DP7が壁際に近い位置で深さ、規模とも副柱穴とはややニュアンスが異なる。また、02Ｄでは東側壁際に僅かに高い
台状部分が見られる。出入口の想定は柱配置及び壁際のピット、床硬化面の広がりを考慮すると01ＤではＰ3南側、02ＤではＰ8東側とすることができる。こうして概観すると01Ｄと02Ｄではプラン、炉の形態等共通点も見られるが、全体からみると相違点が多くあり、上屋構造の差ないしは時間差が考えられる。

b　遺物から見た遺構の動態

遺構外を含めて遺物の主体となるのは、加曽利ＥⅡ式新段階～ＥⅣ式である。検出できなかったか或いは破壊されたかはあるとしても、該期の集落は間欠はあっても展開した可能性が高い。01Ｄ、02Ｄに目を転じてみる。２軒とも加曽利ＥⅡ式(新)やＥⅢ式(古)が混在している。本遺跡が単純にＥⅢ式の集落展開とすると前代の遺物の混入は少ないと想定できる。よってＥⅡ式(新)～ＥⅢ式(古)段階の遺構の存在が高い。また、01Ｄ、02ＤともＥⅣ式段階の遺物も廃棄されている。これによって、ＥⅣ式段階の遺構の存在も高い。01Ｄ、02Ｄを比較してみるとＥⅣ式段階の遺物の混入に差が見られる。01Ｄが多く02Ｄがやや少ない。更にＥⅢ式(古)段階の遺物についても02Ｄが多く01Ｄが少ない。これらの事実から両者ともＥⅢ式(新)段階の遺構ではあるが、02Ｄがやや早く01Ｄが後に居住した段階、両者併存の段階、02Ｄが廃絶し、01Ｄが単独で居住した段階として位置付けられないだろうか。いずれにしても両者ともＥⅣ式段階には廃屋となっていた可能性は高い。　石類は全点数でも22点と少ない。石材は流紋岩４点、砂岩２点、頁岩１点、軽石１点、ホルンフェルス６点、安山岩２点、チャート２点、黒曜石３点となっている。石器では打製石斧、石皿が主体を占める。

以上雑駁ではあるが本遺跡の遺構、遺物について気がついた点を述べてみた。今後近隣地区での調査例が増えた段階で、遺跡の様相を明らかにしていきたいと思う。

写　真　図　版

図版 1

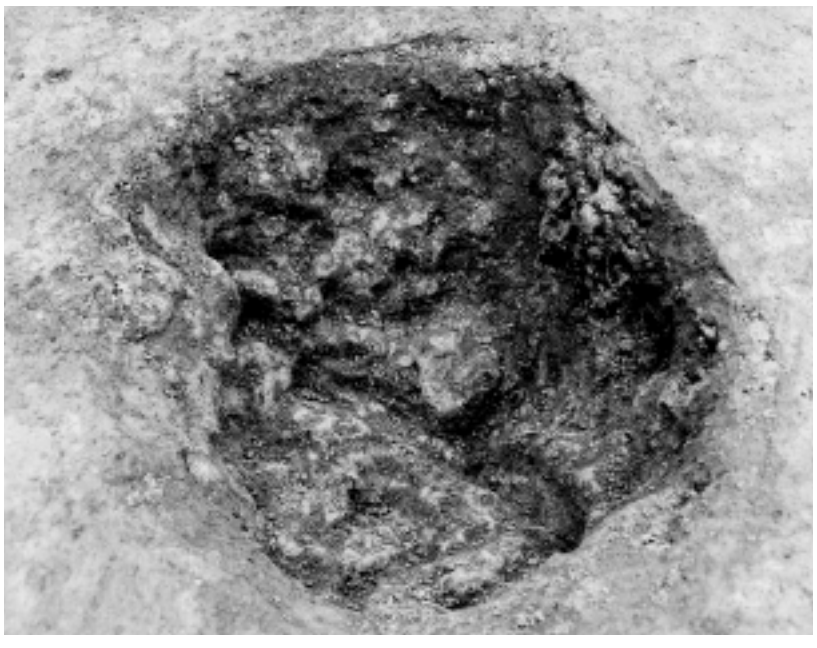
長兵衛野南遺跡周辺全景

遺構全景（南から）

図版 2

01D全景（南西から）

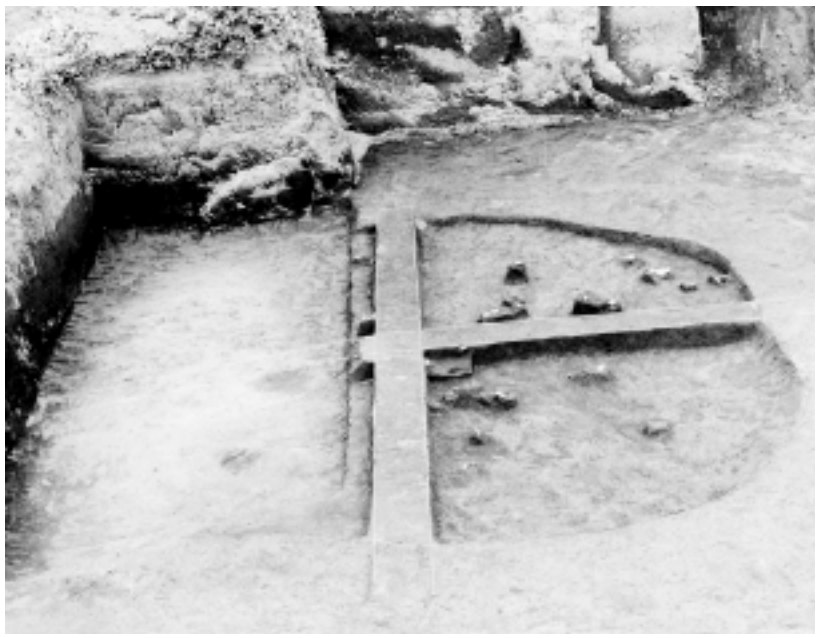
01Ｄ遺物出土状況（南西から）



01Ｄ炉跡状況

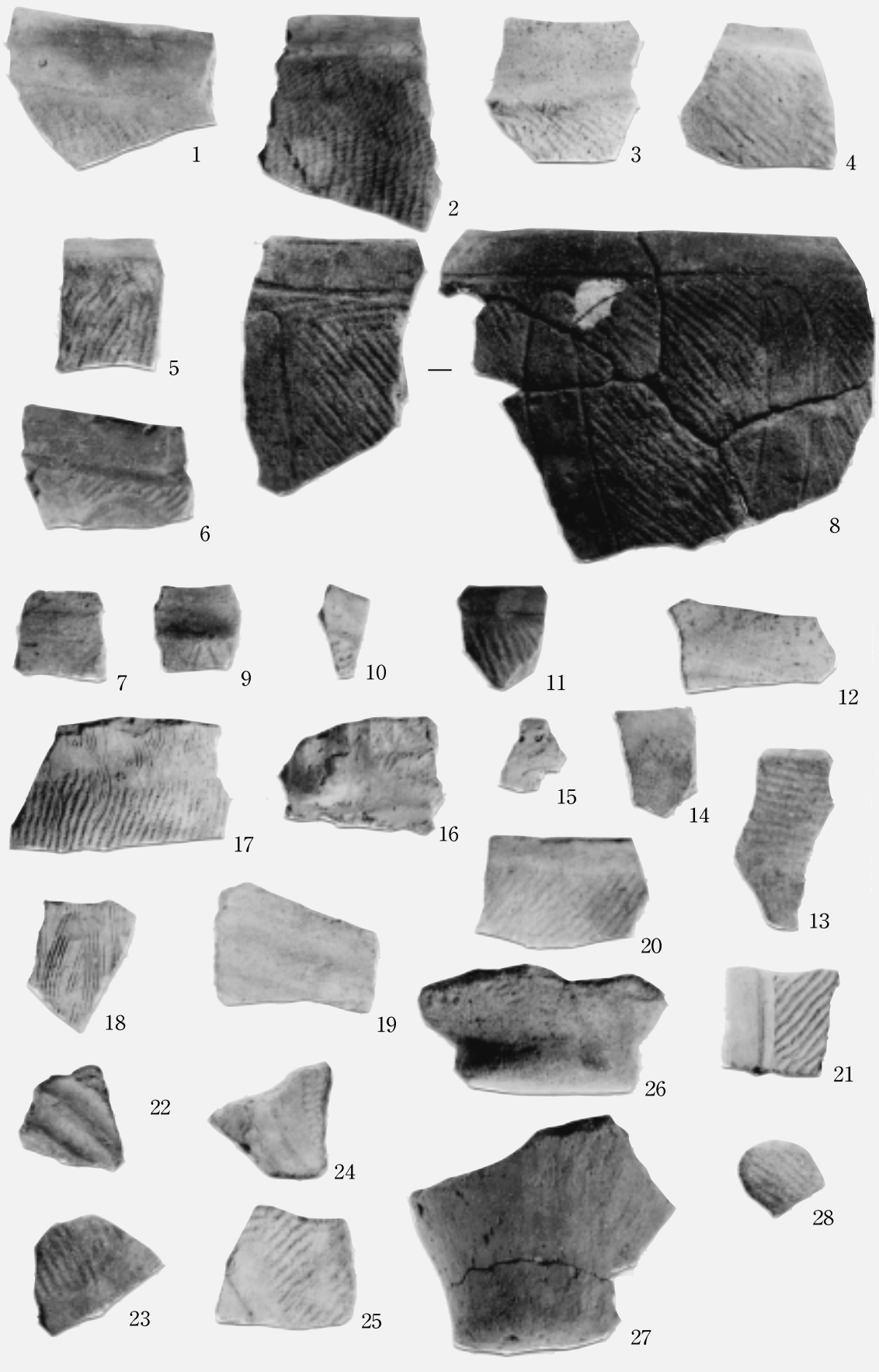
図版 3

02Ｄ全景（南から）



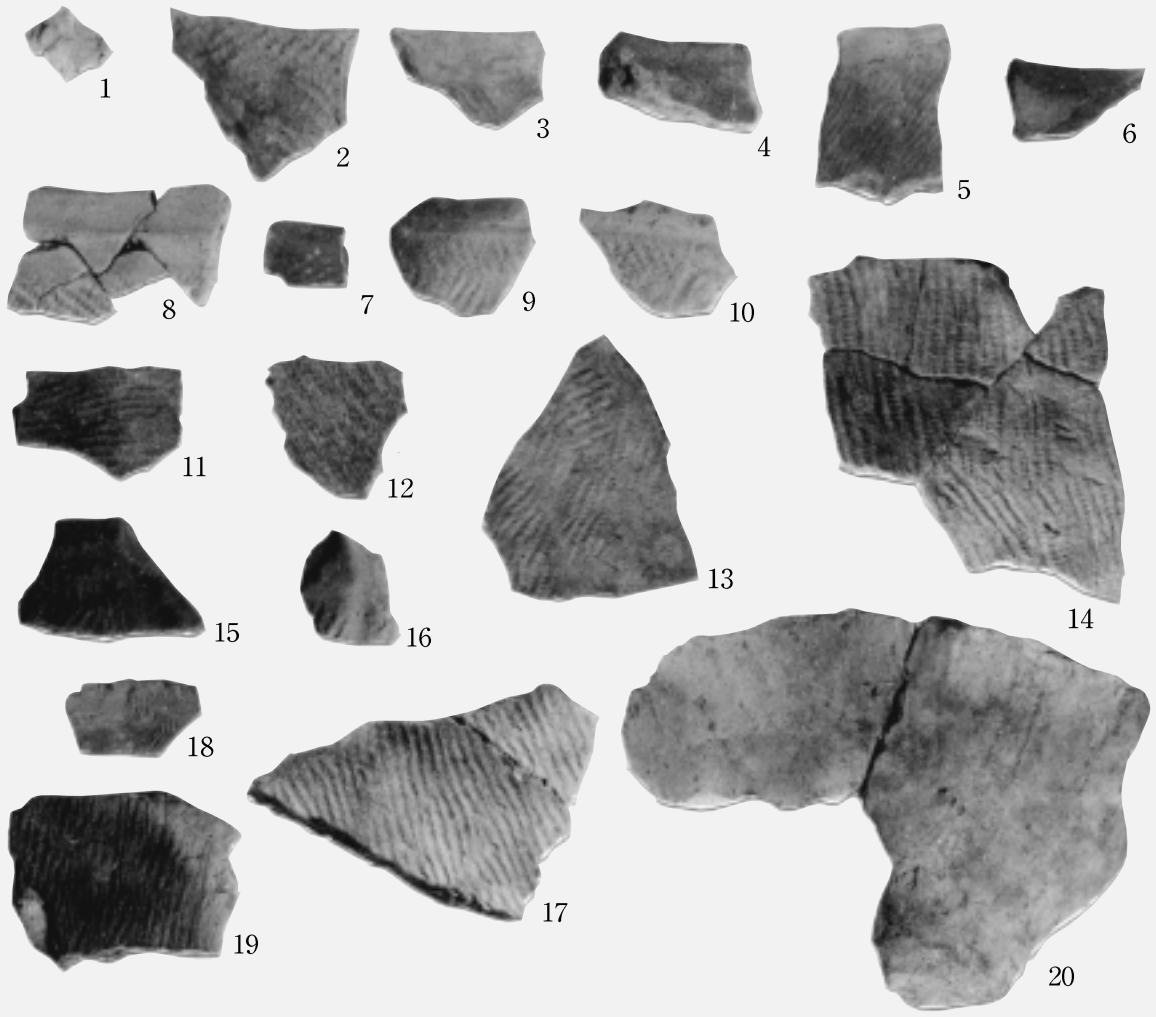
02Ｄ遺物出土状況（南から）

02Ｄ炉跡状況

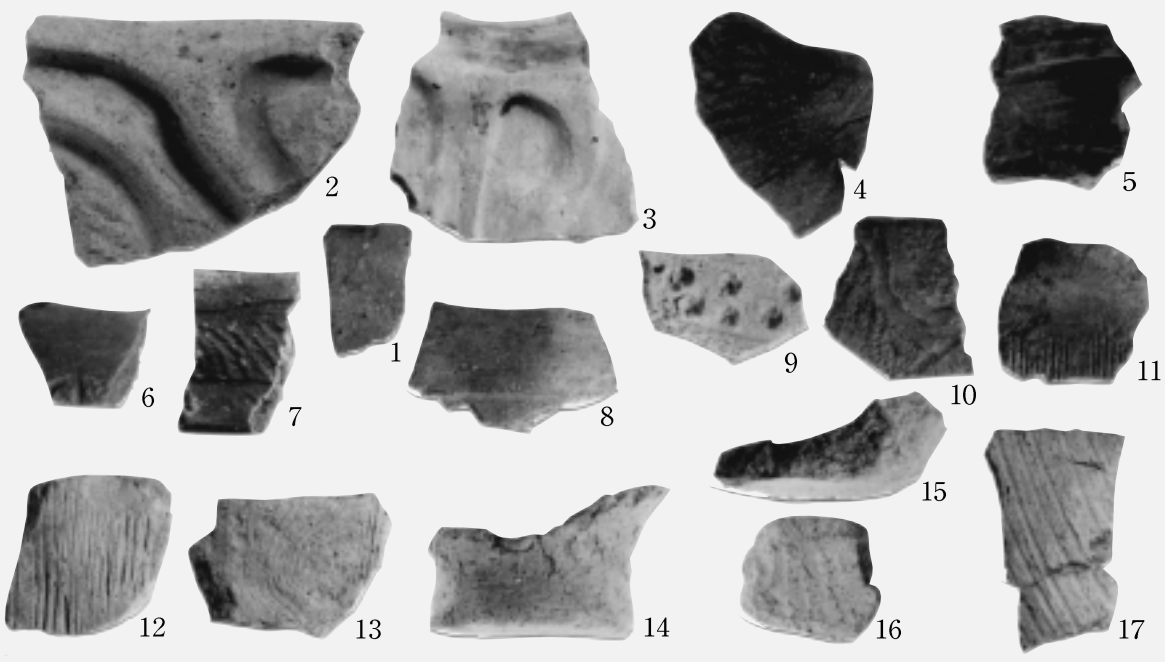


〔01Ｄ出土遺物〕

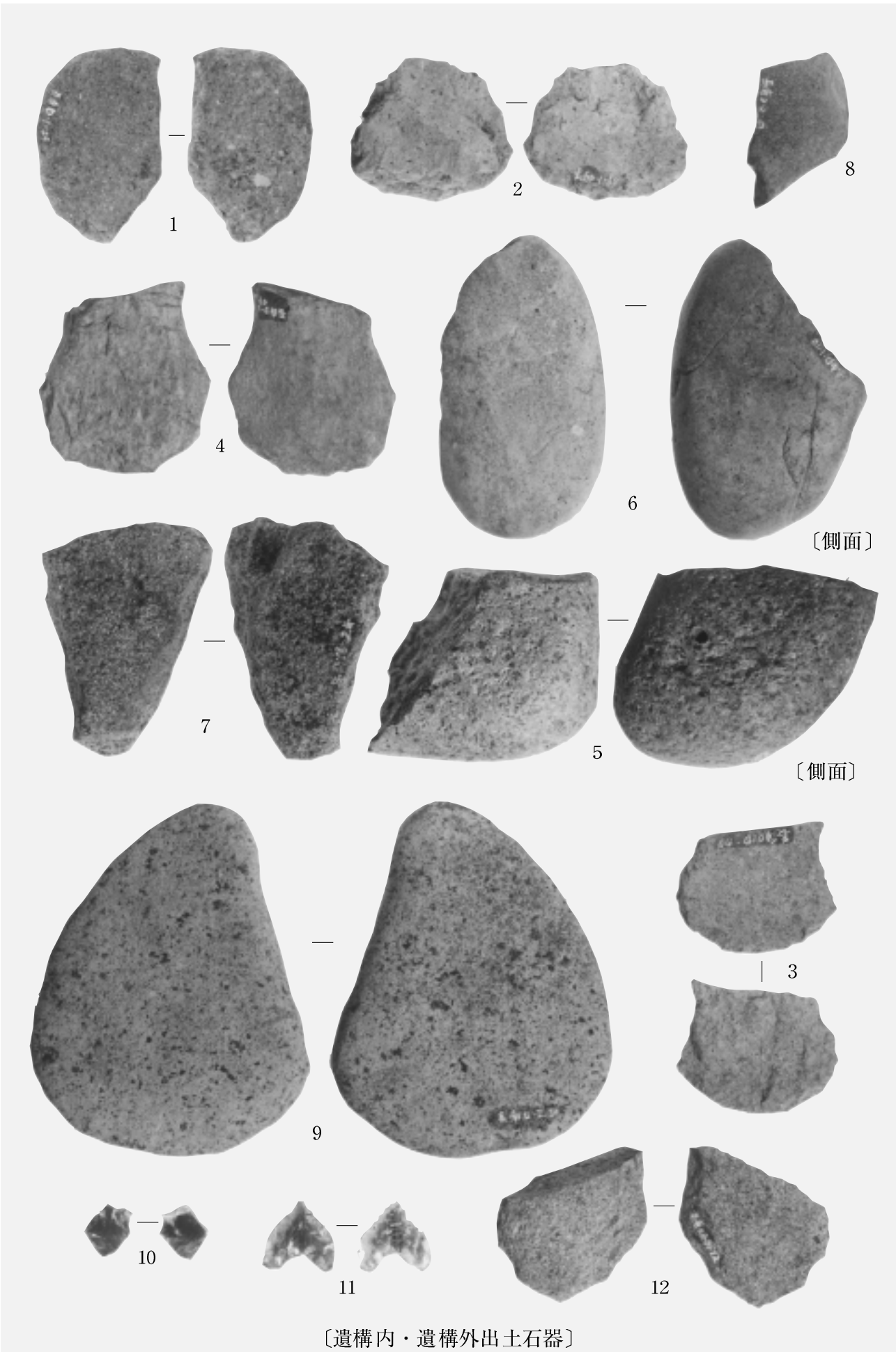
図版 5



〔02D出土遺物〕



〔遺構外出土遺物〕



〔遺構内・遺構外出土石器〕

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし ちょうべえのみなみいせきはっくつちょうさほうこくしょ ―てんぽかいちくにせんこうしたまいぞうぶんかざいはっくつちょうさ―
書名	千葉県八千代市長兵衛野南遺跡発掘調査報告書 ― 店舗改築に先行した埋蔵文化財発掘調査 ―
編著者名	森 竜哉
編集機関	八千代市遺跡調査会
所在地	〒276-0045 八千代市大和田138－2 TEL 047(483)1151
発行年	西暦2000年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長兵衛野南遺跡	八千代市大和田新田	12221	288	35度 43分 42秒	140度 5分 30秒	1997.5.30 ～ 1997.6.13	150㎡	店舗改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長兵衛野南遺跡	集落跡	縄文	住居跡２軒	縄文土器（中期～後期） 土製品、石器	無し

調　査　組　織

平成９年度（発掘調査時）

会長	村越　利光	（八千代市教育委員会生涯学習部長）
副会長	石毛　幸治	（八千代市教育委員会生涯学習部次長）
委員	実川　　憲	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長）
	篠崎　経世	（京成バラ園芸株式会社）
監査	岩浪　　孝	（京成バラ園芸株式会社）
事務局長	実川　　憲	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長）
事務局係長	小名木伸雄	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係長）
事務局員	秋山　利光	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係副主査）
	常松　成人	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事）
調査員	森　　竜哉	（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事）
調査補助員	落亀　昌子　鳥羽　良子　野中　則子　原田　雪子　矢尾ヤス子	
整理補助員	川島すみ子	
事務員	鈴木　安子　高橋　昌代	

平成11年度（整理作業時）

会長	藤城　恒昭	（八千代市教育委員会生涯学習部長）
副会長	三浦　幸子	（八千代市教育委員会生涯学習部次長）
委員	実川　　憲	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）
	篠崎　経世	（京成バラ園芸株式会社）
監査	岩浪　　孝	（京成バラ園芸株式会社）
事務局長	実川　　憲	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）
事務局係長	小名木伸雄	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財保護班主査）
事務局員	秋山　利光	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財保護班副主査）
	宮澤　久史	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財保護班主任主事）
調査員	森　　竜哉	（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財保護班主任主事）
整理補助員	遠藤　　誠	
事務員	鈴木　安子　高橋　昌代	

千葉県八千代市

長兵衛野南遺跡発掘調査報告書

― 店舗改築に先行した埋蔵文化財発掘調査 ―

印　刷　　平成12年３月24日
発　行　　平成12年３月31日
編　集　　八千代市遺跡調査会

発　行　　京成バラ園芸株式会社

印　刷　　株式会社　山下印刷